



守谷市協働事業

国連「障害者権利条約」批准2013/12/5

スマイル・プロジェクト

～笑顔あふれる学びの里～



青年の現状と課題は何か？

- 失われた10年から、さらに10年が過ぎて現在、青年を取り巻く環境は厳しさを増しています。

- 就職難「超氷河期」
- ニート
- 引きこもり
- 離職率「ブラック企業」
- 地域での孤立



- マスコミ用語を→科学的にアプローチ→ **障害**



発達障害・知的障害の青年たち

- LD(学習障害)
- AD／HD(注意力欠陥・多動性障害)
- 高機能広汎性発達障害(自閉症スペクトラム)
- // // (アスペルガー症候群)

特別支援学校高等部卒業後の進路



社会的適応力・人間関係を学ぶ場

生活訓練・就労移行支援「**専攻科**」



「専攻科」とは・・・ (HPからの抜粋)



現在、支援学校の高等部卒業後の進路として、就職か福祉的就労しかありません。これはきわめて限定的であり、進学を選択肢がないということです。

しかし、いま全国各地には新たな第三の選択肢である「学びの場」が誕生しています。その一つが「専攻科」で、**「ゆっくりじっくり学びたい、学ばせたい」**願いを実現させたのが「専攻科」なのです。

「もりや学びの里」に青年の笑顔あふれる スマイル・プロジェクト

●「専攻科」という名の 学校の創設

(法規的には「学校」でなく、「障害者総合支援法」の障害者福祉サービス)



対象：発達・知的障害者

定員：5～6人



- 福祉型専攻科の実践例
- 神戸市にある「エコールKOBE」
- 神戸大学発達科学部でのキャンパス交流
- *Posted on 2013年11月14日*
- パネル発表、歌とダンスの交流で大いに盛り上がる！

私たちの目指す実践例

福祉型事業専攻科「エコールKOBÉ」

- 「自立訓練(生活訓練)事業」の目的である「**自立した日常生活又は社会生活を営むことができる**」ことをめざします
- 特別支援学校の高等部を含むこれまでの教育成果を引き継ぎ、青年期に見合った教育(訓練)を学園の理念に基づき行うことをめざします
- 様々な社会的体験を深め、「**主体的に・豊かに・楽しく**」の理念の生かし、**将来の社会的自立にゆっくり、ゆったり備える**ことめざします
- 一人一人の個性、**障害の特性を活かした進路指導、進路実現**をめざします



時間割表カリキュラム表

時間割	月	火	水	木	金
HR					
1	自主研究	人文	自然	社会	職業
2	//	社会	人文	自然	//
昼食					
3	生活	職業	ビジネス	芸術	生活
4	//	//	情報	//	//
クラブ活動					

カリキュラム編成表

分野	科目	1年	2年
人文科学	国語	1	1
	言葉	1	
	コミュニケーション	1	1
	生活漢字		1
社会科学	地歴	1	
	公民	1	1
	経済		1
	社会体験	1	1
自然科学	計算	1	
	算数		1
	生物・気象	1	1
	科学	1	
生活	暮らしと生活	1	
	調理実習	1	1
	家事一般	1	1
	生活体験	1	2
職業	職業観	1	
	労働	1	
	職業実践	1	2
	職場体験	1	2
芸術	陶芸	1	1
	絵・デザイン	1	} 1
	音楽	1	
	映像		1
スポーツ	基礎体力	1	
	健康	1	
	競技一般	1	1
	スポーツ	1	1
自主研究		2	2
選択			3
計		26	26



「茨城の専攻科を考える会」

- 特定非営利活動法人の申請中

11月13日 設立総会実施

- 活動内容

1 障害者問題の研究・実践

2 学習会などの開催

3 先進国視察（韓国視察：映画監督同行取材）



教育年限延長についての

保護者意識調査

- 「障害者の特別支援学校高等部卒業後の教育年限延長に関する意識の調査研究」

研究の課題・目的

- 健常の青年たちの多くが大学に進学する時代にあって、18歳以降の進学例が少ない特別支援学校(特に知的障害)の現状について、保護者はどのように考えているのか。それを知るために、保護者へのアンケート調査を実施し、教育年限延長へのニーズを明らかにした。

大学等進学率の比較

2011, 5.1.文科省学校基本調査より



・通常高校2011.3卒

大学等54.4%、専修学校16.0

・特別支援学校

大学等 2.7%、専修学校 0.3%

・障害別

(ろう:39.8 %、2.4% 盲:22.3%、0.2% 病弱:6.7% 4.6%

肢体:1.6 % 0.3% **知的:0.5 % 0.1%**)

進学の間格差

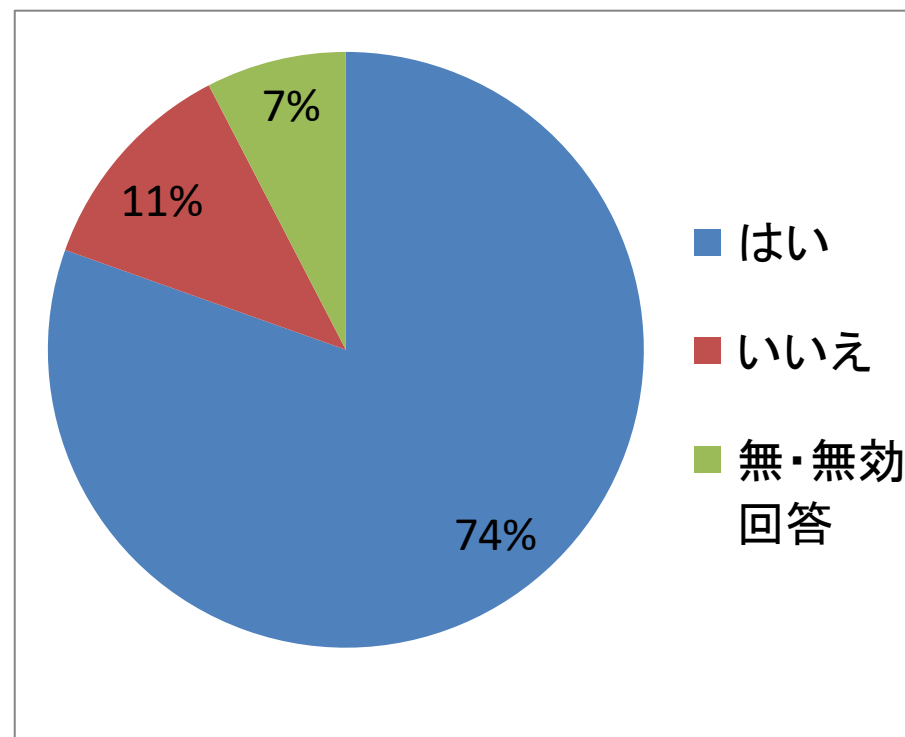
- ・障害があることによる間格差
- ・障害種別による間格差



高等部卒業後の進学について

1) 高等部卒業後の進学は必要か

- 「はい」 74% (297人)
- 「いいえ」 11%
- 無・無効回答 7%



アンケートの結果

親御さんの気持ち

- 高等部卒業期に生徒が大きく変わりもう少し教育の機会があれば大きく成長することへの期待
- 健常者なら当たり前のように大学や専門学校に進学する時代に、障害があるのに18歳で社会に出るのは早すぎるのではないか
- 仲間と楽しいことの経験、無駄と思える時間でも悩み失敗しながら自分像をゆっくり描いて欲しい

2「専攻科」を考える学習会

- 県内の特別支援学校の保護者・福祉・教育関係者が多数参加

2013.10.6





3「専攻科」先進国視察 ～韓国の旅～



専攻科の視察と交流
～映画撮影の様子～



守谷に学び舎を！

それが スマイルプロジェクト

～すべての青年に学びの場を～

- 守谷市との協働  施設設備の確保
- NPO法人との協働  事業の運営・継続・費用対効果も期待
- 2013年「障害者権利条約」批准
- インクルーシブ(排除しない)守谷市誕生

イメージアップ→「住みたい街」ランクUP